

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between allergen-specific immunoglobulin E sensitization, allergic rhinitis symptoms, and quality of life in school-aged children

和文タイトル:

学童期におけるアレルゲン特異的免疫グロブリン E 感作、アレルギー性鼻炎症状および QOL の関連性

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター(山梨)

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Scientific Reports

年: 2024

DOI: 10.1038/s41598-024-83471-8

筆頭著者名: 渡辺 大輔

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター(山梨)

目的:

スギ花粉症の有病率が日本で最も高い山梨県の8歳児を対象に、ダニおよびスギ特異的 IgE 陽性率とアレルギー性鼻炎の症状との関連を調査し、アレルギー性鼻炎の症状の重症度と生活の質(QOL)を明らかにすることを目的とした。

方法:

山梨県のエコチル調査学童期追加調査(総合検診)に参加した8歳児において、ダニ及びスギ特異的 IgE を測定できた 1,531 人を研究対象とした。ダニ及びスギの感作陽性はクラス2 (0.70 U/mL) 以上とした。アレルギー性鼻炎の質問票から鼻炎の重症度及び QOL を調査し、性別でクロス集計を行った。

結果:

ダニ特異的 IgE 感作陽性の子どもは 656 名 (53.4%) で、男児 362 名 (60.6%)、女児 294 名 (46.5%) であった。スギ花粉特異的 IgE 感作陽性の子どもは、820 人 (68.6%) で、男児 430 人 (73.1%)、女児 390 人 (64.1%) であった。慢性アレルギー性鼻炎患者の 40.2%、季節性アレルギー性鼻炎患者の 78.4% がそれぞれ中等度から重度の鼻炎症状を呈していた。季節性アレルギー性鼻炎患者の 60% 以上が、勉強、野外活動、睡眠に関する QOL に影響があることがわかった。

考察(研究の限界を含める):

本研究では、日本で最もスギ花粉症患者数の多い地域の 8 歳児を対象に、ダニおよびスギ特異的 IgE に対する感作の有病率を初めて明らかにした。8歳児の時点でスギ特異的 IgE 感作陽性率は、成人と同様の割合であることがわかった。スギ花粉症患者は症状が重く、睡眠、外出、学業成績に大きな悪影響を及ぼしていることから、早期予防と治療が不可欠である。症状や QOL に対する治療効果を明らかにするためには、学童期以降のさらなる追跡調査が必要である。

結論:

本研究は、山梨県内の子どもにおけるダニおよびスギ花粉特異的 IgE 感作陽性率とアレルギー性鼻炎症状との関連を明らかにした。特にスギ花粉症の子どもでは QOL に悪影響を及ぼしていることがわかった。